

愛知県半田市（国内 34 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 20 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 20.6 万羽）

発生家きん舎の構造：ウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立 8 段 4 列（1 階・2 階各 4 段）、通路 3 本）

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は丘陵地にあり、1 月 10、11 日に本病の発生が確認された今シーズン国内 23、24、27 例目（愛知県 4、5、6 例目）の発生農場がある養鶏団地から東に約 4 km 離れた場所に位置している。農場の周辺には収穫済みの水田や牛舎が存在し、農場周囲は山林や竹林に囲まれていた。
- ② 調査時、農場から約 100m 離れた池では、カモ類やサギ等の野鳥が数羽確認された。
- ③ 当該農場は、ウインドウレス鶏舎 6 棟 11 鶏舎（成鶏舎 4 棟 9 鶏舎、大雛舎 1 棟、育雛舎 1 棟）、堆肥舎（発酵ハウス、乾燥ハウス、堆肥舎）、集卵施設、事務所等で構成されていた。発生は 3 鶏舎からなる成鶏舎 1 棟で確認され、発生鶏舎は 3 鶏舎のうちの中央に位置していた。
- ④ 発生が確認された成鶏舎を構成する 3 鶏舎は内部の隔壁で仕切られていたが、鶏舎の前後は繋がっており従業員の行き来ができるようになっていた。また、いずれの鶏舎も直立 8 段ケージが 4 列設置されていた。

3 通報までの経緯

- ① 発生鶏舎（通報時約 645 日齢）では約 2 万羽の採卵鶏が飼養されており、通常の死亡羽数は 1 日当たり平均 3 羽程度であったとのこと。
- ② 1 月 18 日の朝の見回りの際、発生鶏舎の中央に位置する直立 8 段ケージの下から 4 段目のケージ付近で、5 羽以上の鶏がまとまって死亡しているのが確認されたため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 発生鶏舎では、通報のあったケージを中心に 20 羽程度の死亡鶏が散在して確認されたとのこと。また、発生鶏舎以外では、異状は確認されなかったとのこと。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、農場長を含め従業員が 25 名おり、10 名がシフト制で鶏舎内作業に従事していたとのこと。発生時は 2 名が発生鶏舎を担当していたとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場の入口には、立入禁止看板と車両消毒ゲートが設置されていた。集卵車や飼料運搬車等の外部車両が農場に進入する際は、当該ゲートで噴霧消毒を行った上で、必要に応じて動力噴霧器でタイヤの消毒を行っていたとのこと。運転手は消毒ゲート近くの更衣室で場内作業用の作業着と長靴に更衣していた。
- ② 従業員が農場に入場する際は、衛生管理区域外にある従業員専用の駐車場に車を止め、消毒ゲート近くの更衣室で場内移動用の作業着と長靴に履き替えていた。さらに、管理棟で場内専用の作業着、長靴を着用し、手指消毒を実施しているとのこと。
- ③ 従業員が鶏舎に入る際は、前室の入口に設置された踏込消毒槽（逆性石鹼、毎日交換）で農場内用の長靴の消毒を行って鶏舎前室に入室し、鶏舎前室で鶏舎内専用の長靴に履き替え、アルコールスプレーで手指消毒を実施し、鶏舎に入る際に再び踏

込消毒を行っていたとのこと。なお、鶏舎前室にはすのこが設置され、交差汚染防止の対策が講じられていた。

- ④ 鶏舎単位でロット管理されており、オールイン・オールアウトを行っているとのこと。また、約 450 日齢で誘導換羽を実施しているとのこと。
- ⑤ 給与水には、消毒済みの地下水を利用しているとのこと。
- ⑥ 飼料タンクには蓋が設置されており、閉鎖系ラインで鶏舎内に自動給餌されていた。
- ⑦ 発生鶏舎では、鶏舎前方（入口側）のクーリングパッドから入気し、鶏舎後方の排気ファンにより排気されていた。なお、病原体侵入防止の観点から、クーリングパッド用の冷却液には消毒液を使用しており、鶏舎外側のパッドには不織布が設置されていた。通常時の冬期の入気は、鶏舎側面上部に設置された入気口から外気を導入していたが、国内 17 例目（愛知県 1 例目）が発生して以降は、当該入気口は閉鎖していたとのこと。
- ⑧ 鶏舎前方には集卵コンベアの出口があり、コンベア上部と側面はカバーで覆われていた。コンベア下部には覆いは設置されていなかったが、コンベア接合部の隙間は 1 cm 程度であった。
- ⑨ 除糞作業は中 2 ～ 3 日をあけて実施され、堆肥舎に蓄積させたものを週に 2 回コンポストに投入して処理していたとのこと。除糞ベルトの鶏舎接合部には隙間はなく、ベルトラインには上下ともカバーが設置され、堆肥舎に直結していた。
- ⑩ 死亡鶏は毎日の見回りの際に回収し、鶏舎外に置かれた蓋つきのプラスチック容器に入れて保管していたとのこと。また、廃棄卵はバケツで回収し、死亡鶏と一緒にコンポストに投入して処理していたとのこと。
- ⑪ 堆肥舎には防鳥ネットが設置されていたが、一部に隙間が確認された。
- ⑫ 周辺農場で本病が確認されて以降、飼養衛生管理区域内は消石灰を散布し、鶏舎ではクーリングパッドへ不織布を設置して消毒液を噴霧していた。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場周辺では、スズメ、カラス等を見かけるとのこと。調査時、農場内で複数のカラスを数羽確認した。なお、カラス避けのため鶏舎間には防鳥用反射テープをつけたテグスが張られており、設置後、農場内で見かけるカラスの数が減ったとのこと。
- ② 鶏舎内のネズミ対策として殺鼠剤を設置しているが、最近では鶏舎内でネズミを見かけることはないとのこと。鶏舎内には、破損箇所やネズミの痕跡は確認されなかった。

（以上）